

かまくら 女性史の会 Newsletter

第 139 号

2026 年 6 月 20 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

《三、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争、そして敗戦の昭和時代》

①大恐慌と中国侵略戦争で始まった昭和 第一次大戦後の恐慌、関東大震災、1927 年金融恐慌に続く 29 年世界大恐慌という不況下で企業倒産、大企業も首切り賃下げで失業者が街に溢れ、欠食児童・子女の身売りが起きた。教師も賃金不払い、失業者が帰った農村も恐慌で喘ぐ昭和の夜明けだった。軍部・右翼の宣伝により「大陸進出で日本は不況から救われる」と期待する世論が作られ、1931 年に「満州事変」勃発、日本軍の中国戦略が始まった。

労働運動への圧力も強まり、1920 年第一回メーデーに参加した「日本教員組合啓明会」の教員は免職、機関紙も発禁処分を受けた。36 年には教職員組合を設立した兵庫の倉岡愛穂ら小学校教師 4 人が逮捕され、翌年倉岡が虐殺されるという事件もあった。優れた教育実践家らがこのように弾圧の対象となった。

②アジア太平洋戦争 満州事変（1931）と日中戦争（1937～）、太平洋戦争（1941～）は不可分である。1941 年、日本は米・英・オランダなど連合国と戦争に突入、戦争目的は資源確保や日中戦争の行き詰まり打開だった。戦場は太平洋の島々・南アジア全域に拡大、「大東亜共栄圏」建設を掲げ朝鮮・台湾で皇民化政策を強化、占領地域では抗日運動が活発化した。1942 年 6 月ミッドウェー海戦敗退以降、戦局は悪化し、米軍による市街地爆撃で多くの犠牲者が出た。45 年 6 月沖縄戦敗北、広島・長崎への原爆投下の末、8 月 15 日、日本は降伏した。15 年間のアジア侵略戦争は、2000 万人を超える軍民の犠牲を出した。

③戦争下の子ども、学校、教育 1941 年、「皇国ノ道」を教え皇国民の錬成を目的とする国民学校が発足。それに備え 1939 年には、明石女子師範学校で中堅女子教員再教育のため一ヶ月間講習が行われた。日中戦争以降の男子教員不足の中、女性の臨時教員養成促進が図られた。

1943 年には学生生徒の勤労働員決定、徴兵延期も廃止され、同年 10 月明治神宮外苑にて出陣学徒壮行大会が挙行された。国民学校 3 年生以上の子どもたちも勤労奉仕に駆り出される日々が増え、さらに 44 年夏以降、空襲に備え学童の地方疎開が行われた。45 年国民学校初等科を除く全学生・生徒の授業が停止され、教職員と学生生徒は学徒隊として本土決戦の実働単位とさせられた。

④1945 年 8 月 15 日、昭和天皇がポツダム宣言受諾をラジオ放送、無条件降伏 戦争終結の日は、中国大陸、台湾、朝鮮半島、東南アジアの多くの人々にとって「民族の解放」の日であった。アジア太平洋戦争は第二次世界大戦の一部であるとともに、アジア各地の植民地体制崩壊・独立運動の契機になる歴史的事件でもあった。降伏を知り江津荻枝は「やっとほんとに戦争が終わったのだと私は柔かい畑土の上で手足を振って小躍りした。その時、生け垣にからまって一面に咲いていた^{のうぜんかずら}凌霄花の錆朱色の筒花が、真昼の光の中で一斉に燃えたったかと私には見え、それが自分の心の中に燃えうつり、紅い炎が胸から体中に熱く漲ってくるような烈しい感動を覚えた」と書いた。（自伝『メザマシ隊の青春』、聞き書き『33 人が語る かまくらの女性史 大正・昭和』）